

<報告要旨>

区切られる空間、つながる場所：タイ海洋国立公園におけるモーケンの潜水漁の動態

鈴木佑記（日本学術振興会特別研究員 PD／早稲田大学アジア研究機構）

[要旨]

タイで最初の海洋国立公園が指定されたのは1966年のことであるが、政府が海域の管理に関心を高め、海洋国立公園化の動きを本格的に進めるようになったのは1980年代に入ってからのことである。1981年にスリン諸島が国立公園に指定された後、1986年にターイムアン地域、1991年にカオラック地域など、アンダマン海の島嶼と沿岸地域が次々と海洋国立公園へと組み込まれていった。ヴァンダーギースト [Vandergeest 1996] は、国家が特定の人々や資源を統治するために、領土に境界線を引き、複数の区域を設けるあり方を「領域化 (territorialization)」と呼んだが、タイ政府が海域を管理するために空間を区切り、いくつかの海洋国立公園を設定したあり方は、領域化の典型といえるものである⁽¹⁾。

そして、タイ政府による海の領域化は、アンダマン海域を拠点に長年暮らしてきた人々に大きな影響を与えることになった。その人々というのが、本報告で取り上げる少数民族モーケンである。モーケンは、しばしば「シー・ジプシー」や「シー・ノマッド」などと表象されることから想像できる通り、かつては船を住まいとして島嶼間を移動しつつ、漁撈活動（特に潜水漁）に生活の基盤をおいていた。ところが1980年代以降、政府による海の領域化が進められるにつれて、海上における移動と漁撈活動に制約が加わるようになり、ほぼすべてのモーケンは、複数の区切られたアンダマン海域の各地に散らばり生活するようになっていく。ただしモーケンは、政府によって一方的に区切られた空間をそのまま受け入れて暮らしているわけではない。彼らは、日常生活の中で空間を読みかえ、また再編成することで、自らがより快適に生活できる場所を創りだしてもいる。

本報告では、スリン諸島を拠点に生活するようになったモーケンを事例として、彼らの潜水漁に焦点を当てることにより、政府による海の領域化によって、モーケンがどのような影響を受けてきたのか、またいかなる対応をしてきたのかについて明らかにしたい。

(1) ヴァンダーギーストは、近代的国民国家が主導する森林政策について言及する際に領域化という概念を用いたが、報告者は海洋政策についても適用可能なものであると考えている。ここでは仮に、「海の領域化」と呼ぶことにしたい。

(参考文献)

Vandergeest, Peter 1996. Mapping Nature: Territorialization of Forest Rights in Thailand. *Society and Natural Resources* 9: 159-175.